



学校名：木曾町立開田小学校

氏名：伊藤 須美子

● 実践教科等：開田科・生活科

● 時間数：7 時間

● 対象生徒：小学校2年生

● 対象人数：11人

[担当教科：小学校全教科]

## 1 単元名

体験してみよう・比べよう・調べよう～モンゴルと開田高原～

「ぼくたち わたしたちの 木曾馬」

## 2 単元の目標（ESD の能力・態度）

- ・モンゴルや世界の文化や生活を知ることを通して、異文化への興味・関心を高める。  
(つながりを尊重する態度)
- ・モンゴルの人たちと暮らす「モンゴル馬」と開田高原で古くから共に暮らした「木曾馬」を比較し、その違いと共通点を知る。
- ・モンゴルの人たちが馬に抱く「誇り」を知り、「木曾馬」に対しても、誇りや愛着を持つ。  
(多面的、総合的に考え行動する能力)

## 3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

|     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 多様性 | 相互性 | 有限性 | 公平性 | 連携性 | 責任性 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|

- ・日本とモンゴルの文化や生活、価値観の違いに気付く。【多様性】
- ・日本(開田高原)とモンゴルの共通点に気付く。【相互性】
- ・モンゴルの人々と馬との生活や考え方から、木曾馬に対して誇りや愛着を持つ。【連携性】

## 4 単元の指導について

### (1)教材観

開田小学校は標高1136mに位置し、全校児童数が80名足らずの小規模・僻地校である。地理的な面から開田高原は他地区より閉鎖的な面があり、都心との交通・経済の格差も大きい。そんな開田高原の児童にとって、「海外」とはとても遠い存在である。だからこそ、「高原・馬・冬の寒さ」など開田高原と共通点が多い、モンゴルという国に触れることを通して、子どもたちにとって遠い存在である「外国」を自分たちと繋がっている世界として感じられるようになって欲しいと考えた。

また開田小学校では、本年度からふるさと・6年間で郷土・開田を学ぶ「開田科」が始まった。2年生では8種しかいない日本原産種である「木曾馬」の学習を行う。開田高原はこの木曾馬の産地として栄えた場所だ。しかし、戦時中に農耕馬の木曾馬ではなく軍用馬の飼育を余儀なくされたことと、機械化が進み馬の必要性が低下したことにより、昭和初期には木曾地方に数千頭いた木曾馬は急激に衰退した。現在では、全国で150頭ほどが残されている。それに比べてモンゴルでは人口が約300万人なのに対し、今も300万頭の馬を飼育している。遊牧民のゲルに訪れてみると、車もバイクもトラックもあった。それでも馬が一家に数十匹いるのだ。その理由を尋ねると「馬は男のプライドだから」という答えが返ってきた。この返答にモンゴルと開田高原の馬の現状の違いを感じた。だが、木曾馬に対しても誇りやプライドを持っていた方はこの開田にもたくさんいたはずだ。モンゴル馬と木曾馬を比較しながら、木曾馬の力強さ、歴史、木曾馬と生活した方の想いに触れながら、自分たちにとっての「木曾馬」を見つけて欲しいと考え、本単元を設定した。

### (2)児童生徒観

2年生の児童にとって外国とはとても遠い存在である。知っている国も「アメリカ」「フランス」「イギリス」など先進国だけであり、またその国がどこにあり、どういった文化を有しているかは、知る機会自体が乏しい。掲示板等にモンゴルクイズを掲示したり、モンゴルで購入した教材を置いたりして、まずは外国に興味を持てるように工夫した。

## ○2年生と「モンゴル」という国との出会い

本学級の児童は、7月の音楽会に向け「スーホの白い馬」を学習しており、このお話を通して、モンゴルという国があること、草原が広がっていること、牛や羊や馬を飼って生活していること、競馬があること、馬頭琴などを知った。今まで海外の作者の物語は多く扱ってきたが、海外の郷土にどっしりと根ざした物語は初めてで、この物語の学習を通して、モンゴルという国に対して関心を高めた。

## ○2年生と木曽馬

開田小学校から1キロほど離れた所に「木曽馬の里」という、木曽馬の保護センターがあり、30頭ほどの木曽馬が飼育されている。子どもたちは保育園の頃から木曽馬にえさをあげに行ったり、乗馬したりしている。特定の木曽馬に愛称を付けて可愛がっている子もいる。だが、子どもたちにとっても木曽馬はキャラクター的な扱いで「木曽馬の里に行ったら会える動物」という認識で、中には馬と共に生活していた歴史があることや、木曽馬の特性などを知らない児童も多い。大きい動物を怖がり、えさをあげられない児童も数名いる。

## (3)指導観

○体験的活動を多く取り入れる。

児童にとって遠い存在の「外国」を扱うため、できるだけ体験活動を多く取り入れ、楽しみながら違いや良さを体験できるようにする。また、体験は少人数グループで行い、楽しさや発見をすぐにつぶやきで共有できるようにする。「服・食・遊び」など、体験の前には、臭い・形・大きさなどから、どんな時に使う服か、どんな味がするのか、どんな遊び方をするのか、など必ず予想を立てる。予想は自分たちの経験から出てくるものなので、予想と結果の違いから、文化や郷土の多様性や驚きを発見できるようにする。

○身近な方にゲストティーチャーとして来て頂く。

木曽馬とモンゴル馬を扱う授業では、子どもたちが木曽馬との暮らしをより身近に感じられるよう、祖父母にゲストティーチャーとして授業に参加して頂く。また、モンゴル馬のことを紹介する際には、ゲルで撮影したインタビュー映像を見せるなどして、具体的に子どもたちに伝えていく。

## 5 評価規準

| 観点       | 生活(開田科)への<br>関心・意欲・態度                                                                                                                                                                                                            | 活動や体験についての<br>思考・表現                                                                                                                                                                                                                                              | 身近な環境や<br>自分についての気付き                                                                                                                                                                                                                              |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価<br>規準 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルの服、食、遊びに関心を持ち、楽しく活動しようとしている。(1～3限)</li> <li>・木曽馬やモンゴル馬に関心を持ち、進んでインタビューをしたり、両者を比べて違いや共通点を発見したりしようとしている。(4～5限)</li> <li>・インタビューや木曽馬体験を通して、木曽馬に対して親しみや愛着を持って接しようとしている。(6～7限)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルの服、食、遊びに対して、自分なりに予想を立てたり、体験して思ったことを友だちと伝え合ったりする。(1～3限)</li> <li>・木曽馬とモンゴル馬を比べるなかで、違いや共通点を見つけたり、自分の考えを持ったりして、文や言葉で伝え合っている。(4～5限)</li> <li>・木曽馬と触れ合う中で、木曽馬の力強さや、穏やかさ、木曽馬と生活する人たちの工夫を知り、自分の言葉や文に表している。(6～7限)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの地域に、それぞれの地域に根ざした服、食、遊びがあることに気付いている。(1～3限)</li> <li>・ゲストティーチャーの方の話を聞いたり、丸山観音へ行ったりする中で、開田の人達が木曽馬と家族のように過ごしていたことに気付いている。(4～5限)</li> <li>・木曽馬と触れ合う中、木曽馬の力強さや、温かさを感じ、木曽馬がいる開田の良さに気付いている。(6～7限)</li> </ul> |
| 評価<br>方法 | 発言 行動 ワークシート                                                                                                                                                                                                                     | ワークシート インタビュー                                                                                                                                                                                                                                                    | ワークシート 行動                                                                                                                                                                                                                                         |

## 6 単元の構成

※太枠の授業内容詳細を「7 授業事例の紹介」に記載

| 時限     | 小単元名                         | 学習のねらい                                                  | 授業内容                                                                   |
|--------|------------------------------|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 1      | 体験してみよう①<br>世界の民族衣装          | 楽しみながら、それぞれの地域に合った服装があることを知る。                           | モンゴル・インド・ネパールなどの民族衣装を着て写真を撮る。<br>【民族衣装：JICA 駒ヶ根より借用】                   |
| 2      | 体験してみよう②<br>モンゴルの味           | スーティツアイやアールールなど、モンゴルの食を体験し、味の特徴を知る。                     | モンゴルから持ち帰ったスーティツアイやチーズを試食する。最初に形や匂いから味の予想をし、食後に感想を伝え合う。                |
| 3      | 体験してみよう③<br>モンゴルの遊び          | シャガイを使って、モンゴルの遊びを楽しむ。                                   | 羊の骨を使ったモンゴルの伝統的なおもちゃシャガイを使って、「占い」「シャガイはじき」「シャガイ積み」をする。                 |
| 4      | 比べてみよう①<br>モンゴル馬と木曽馬         | 木曽馬とモンゴル馬を比べ、同じところや違うところに気づく。                           | ゲストティーチャーに昔木曽馬と共に生活していた祖父母を招き、木曽馬との生活をインタビューする。教師がモンゴル馬のことも紹介する。       |
| 5      | 調べてみよう①<br>猿引きの絵馬<br>【丸山観音】  | 丸山観音に奉納されている猿引きの絵馬を調べる。<br>昭和33年に撮影された特集映像を見る。          | 丸山観音へ行き、ゲストティーチャーの方が教えてくれた魔除けの「猿引きの絵馬」の物語を調べる。                         |
| 6<br>7 | 体験してみよう④<br>木曽馬の力<br>【木曽馬の里】 | 12人で馬車に乗り、木曽馬の力強さを体感する。<br>木曽馬と触れ合う。<br>中川さんにインタビューをする。 | 12人の体重を足して予想実験を行い、予想を立ててから馬車に乗る。<br>馬の体重測定やブラッシング、えさやりなど、木曽馬との触れ合いをする。 |

## 7 授業事例の紹介

小単元名【 体験してみよう③モンゴルの遊び 】

### (1) 指導案

(ア)実施日時 10月17日(金)第2限

(イ)実施会場 2年生教室

(ウ)本時の目標 楽しみながら、シャガイを使ったモンゴルの遊びを体験する。

(エ)指導のポイント

・「シャガイ」は何から作られたか予想したり、実際にシャガイを使って遊んだりして、楽しく活動する。

(オ)本時の展開

| 過程・時間          | 指導内容                               | 学習活動                                                        | 指導形態       | 指導上の留意点                                                                    | 評価<br>(評価規準・評価方法)                |
|----------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 導入<br>5分       | シャガイを1人1に渡し、何で作られたかという道具なのかを予想させる。 | ○シャガイを手に取り、触ったり匂いをかいだりしながら何から作られた、どんな道具かを予想する。<br>○予想を伝え合う。 | グループ       | ●子どもたちの様子に応じて、<br>①動物の骨であること<br>②4面それぞれに形の特徴が違うこと<br>③4つ合わせて使うことなど、ヒントを出す。 | ○シャガイに関心を持って、予想している。             |
| 展開<br>①<br>15分 | シャガイ遊びのやり方を紹介する。<br>【シャガイ占い】       | ○シャガイを使って、運勢占いをする。                                          | 一斉<br>グループ | ●占いの結果表を用意する。(2年生に分かりやすいよう、言葉は若干修正した。)                                     | ○シャガイを使った遊びに関心を持ち、楽しく活動しようとしている。 |
| 展開<br>10分      | 【シャガイはじき】                          | ○シャガイはじき(牛は牛、羊は羊など、その面同士で当てたら、シャガイを取れる遊び)をする。               | グループ       | ●日本の「おはじき」の遊びと似ていることを伝える。                                                  |                                  |

|            |                 |                                                     |                    |                              |                                          |
|------------|-----------------|-----------------------------------------------------|--------------------|------------------------------|------------------------------------------|
| 展開<br>5分   | 【シャガイ積み】        | ○シャガイの形を生かしながら、シャガイを積み上げていく遊びをする。                   | グループ               | ●積みやすい面があることを助言し、形の特徴に気付かせる。 |                                          |
| まとめ<br>10分 | シャガイ遊びの振り返りをする。 | ○シャガイで遊んで思ったことや初めて知ったことをワークシートに書く。<br><br>○感想を伝え合う。 | 個別ワークシート<br><br>一斉 |                              | ○シャガイ遊びを体験して、思ったことや分かったことを自分なりの言葉で伝えている。 |

## (2) 授業の振り返り

| 段階   | 項目                                                                                                                                                                                                                   |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| P 計画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら、シャガイを使ったモンゴルの遊びを体験する。(ねらい)</li> <li>・「シャガイ」は何から作られたか、匂いをかいだり触ったりしながら予想する。(工夫)</li> <li>・シャガイ占い、シャガイはじき、シャガイ積みなど、多様な遊び方を体験させる。(工夫)</li> </ul>                          |
| D 実施 | ・モンゴルで入手したシャガイを使い、上記指導案の通り授業を行った。                                                                                                                                                                                    |
| C 検証 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは目を輝かせながら、夢中になってシャガイ遊びを楽しんでいた。遊びにも、国境がないのだと感じた。(成果)</li> <li>・モンゴルの他の遊びも知りたいと、ワークシートに記述している子がいた。(成果と課題)</li> <li>・シャガイの4つの面を見分けることが難しく、結果が分かりにくいゲームもあった。(課題)</li> </ul> |
| A 改善 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャガイの4つの面を色分けして、視覚的に分かりやすくしておく。(改善点)</li> <li>・道具を使わずにできるモンゴルの遊びがたくさんあるので、児童の関心が高まった時に紹介できるようにしておく。(改善点)</li> </ul>                                                          |



【シャガイを手にとり予測(左)】



【シャガイで占い】



【シャガイおはじき】

## (3) 使用教材

| 面      | 色      | 特徴                          |
|--------|--------|-----------------------------|
| 白      | 白      | シャガイの1面。シャガイの1面。シャガイの1面。    |
| 黒      | 黒      | シャガイの2面。シャガイの2面。シャガイの2面。    |
| 赤      | 赤      | シャガイの3面。シャガイの3面。シャガイの3面。    |
| 青      | 青      | シャガイの4面。シャガイの4面。シャガイの4面。    |
| 黄      | 黄      | シャガイの5面。シャガイの5面。シャガイの5面。    |
| 緑      | 緑      | シャガイの6面。シャガイの6面。シャガイの6面。    |
| 紫      | 紫      | シャガイの7面。シャガイの7面。シャガイの7面。    |
| 茶      | 茶      | シャガイの8面。シャガイの8面。シャガイの8面。    |
| 金      | 金      | シャガイの9面。シャガイの9面。シャガイの9面。    |
| 銀      | 銀      | シャガイの10面。シャガイの10面。シャガイの10面。 |
| 銅      | 銅      | シャガイの11面。シャガイの11面。シャガイの11面。 |
| 鉄      | 鉄      | シャガイの12面。シャガイの12面。シャガイの12面。 |
| 鉛      | 鉛      | シャガイの13面。シャガイの13面。シャガイの13面。 |
| 錫      | 錫      | シャガイの14面。シャガイの14面。シャガイの14面。 |
| 亜鉛     | 亜鉛     | シャガイの15面。シャガイの15面。シャガイの15面。 |
| アルミ    | アルミ    | シャガイの16面。シャガイの16面。シャガイの16面。 |
| ステンレス  | ステンレス  | シャガイの17面。シャガイの17面。シャガイの17面。 |
| チタン    | チタン    | シャガイの18面。シャガイの18面。シャガイの18面。 |
| カーボン   | カーボン   | シャガイの19面。シャガイの19面。シャガイの19面。 |
| セラミックス | セラミックス | シャガイの20面。シャガイの20面。シャガイの20面。 |
| ガラス    | ガラス    | シャガイの21面。シャガイの21面。シャガイの21面。 |
| プラスチック | プラスチック | シャガイの22面。シャガイの22面。シャガイの22面。 |
| 木材     | 木材     | シャガイの23面。シャガイの23面。シャガイの23面。 |
| 紙      | 紙      | シャガイの24面。シャガイの24面。シャガイの24面。 |
| 布      | 布      | シャガイの25面。シャガイの25面。シャガイの25面。 |
| 皮革     | 皮革     | シャガイの26面。シャガイの26面。シャガイの26面。 |
| 金属     | 金属     | シャガイの27面。シャガイの27面。シャガイの27面。 |
| 非金属    | 非金属    | シャガイの28面。シャガイの28面。シャガイの28面。 |
| 有機物    | 有機物    | シャガイの29面。シャガイの29面。シャガイの29面。 |
| 無機物    | 無機物    | シャガイの30面。シャガイの30面。シャガイの30面。 |

【シャガイ占い表】

## (4) 参考資料等

『体験取材!世界の国ぐに13 モンゴル』文・写真 吉田忠正 (株)ポプラ社 2007年  
『行ってみたいな あんな国こんな国①アジア①』東 菜奈 (株)岩崎書店 2010年

## 小単元名【 比べてみよう①モンゴル馬と木曽馬 】

### (1) 指導案

(ア)実施日時 10月22日(水)第2限  
(イ)実施会場 2年生教室  
(ウ)本時の目標 木曽馬とモンゴル馬を比べ、同じところや違うところに気づく  
(エ)指導のポイント

- ・子どもたちがイメージを持ちやすいように、モンゴル馬の回答は電子黒板で写真を見せた。
- ・木曽馬と生活していた祖父母の方にゲストティーチャーに招き、児童がインタビューをした。
- ・祖父母参観日に授業を実施し、保護者・地域の方にも公開した。

(オ) 本時の展開

| 過程・時間      | 指導内容                                           | 学習活動                                                                                                  | 指導形態           | 指導上の留意点                                                        | 評価<br>(評価規準・評価方法)                          |
|------------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 導入<br>5分   | 児童と共に、参観者にシャガイを紹介する。                           | ○グループに分かれて、参観者と一緒に「シャガイ占い」を行う。                                                                        | グループ           | ●グループごと、参観者にシャガイの紹介をするよう促す。                                    |                                            |
| 展開<br>30分  | インタビューを通して、木曽馬とモンゴル馬の飼われ方の違いを比較する。             | ○ゲストティーチャーの関原さん、青木さんのお2人に11項目のインタビューをする。<br>○木曽馬に対する回答と、モンゴル馬の回答を比較する。                                | 一斉             | ●木曽馬に対する回答は、予想を出し合っておく。<br>●モンゴル馬への回答は、教師が見たり聞いたり調べたりした内容を伝える。 | ○自分達が知りたいことを、自分なりの言葉でインタビューしている。           |
| まとめ<br>10分 | インタビューして分かったことや、比較して分かったことをまとめる。<br>次時のめあてを持つ。 | ○モンゴル馬と木曽馬を比べて分かったことをワークシートにまとめる。<br>○分かったことや、もっと知りたいことを伝え合う。<br>○関原さんが持ってきて下さった「開田の昔話」と「猿引きの絵馬」の話聞く。 | 個人ワークシート<br>一斉 | ●比べる視点が見つけられない子には「毛の色で名前をつける」ことや、「飼っている場所」に注目させる。              | ○インタビューして分かったことから、木曽馬とモンゴル馬の違いや共通点に気付いている。 |

(2) 授業の振り返り

| 段階   | 項目                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| P 計画 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーにインタビューしながら、木曽馬とモンゴル馬を比べ、違いや共通点を見つける。その中で木曽馬の特徴（木曽馬らしさ）に気付く。(計画)</li> <li>・木曽馬の身近さに気付けるよう、ゲストティーチャーは子どもにとって身近な祖父母に依頼した。(工夫)</li> <li>・イメージを持ちやすいように、モンゴル馬の回答は電子黒板で写真を見せる。(工夫)</li> </ul>                            |
| D 実施 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルで体験したり見たり聞いたりしたことを生かし、上記指導案の通り授業を行った。</li> </ul>                                                                                                                                                                         |
| C 検証 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は木曽馬の回答を知った後は「モンゴル馬ではどうなのか」と、モンゴル馬を意識しながら活動を進めていた。(成果)</li> <li>・参観していた保護者からも「知らなかったことが知れて大人も楽しかった」「モンゴルの方が馬を大事にしていることを知ると、私も木曽馬が恋しくなった」と感想を頂いた。(成果)</li> <li>・活動が授業時間内に終了しなかった。また似ている質問項目があり、回答比較に混乱が見られた。(課題)</li> </ul> |
| A 改善 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーの方と打ち合わせを綿密に行い、それぞれの馬の特性を比較できる質問を5問ほどに精選し、焦点化して比較ができるようにする。(改善点)</li> <li>・回答に対して、さらに質問する時間を設ける。(改善点)</li> </ul>                                                                                                    |

(3) 使用教材

・木曽馬とモンゴル馬 比較ワークシート

・モンゴル馬の紹介スライド(抜粋)



【仕事：人や物を運ぶ】【子馬をゲルの近くに繋いでお

く】



【馬は5頭～50頭飼う】



【つむじ、毛の色で馬を見分ける】



【多様な毛色をしている】

#### (4) 参考資料等

『子馬の一日』 撮影・文 大久保 緑 (株)ヤマヂ印刷所 2012 年

### 8 単元をととした児童生徒の反応/変化

#### ○モンゴルや諸外国に対する反応・理解

子どもたちは授業を通してモンゴルという国に興味関心を高めていた。図書室でモンゴルが載っている本を探したり、新聞にモンゴルのことが載っていると、「モンゴルのことが載っていたよ。」と伝え合ったりしている。また、本校の ALT の先生はカナダ出身だが、「カナダはどんな国なの?」「何を食べるの?」と、聞いている子もいた。2年生の児童にとって、「日本以外の国」を意識しながら生活していることが大きな変化だと感じた。

#### ○木曽馬に対して

ゲストティーチャーへのインタビューをきっかけに、木曽馬の馬車に全員で乗ったり、体験ブラッシングをしたり、えさをやったりとたくさん木曽馬との触れ合いを行った。触れ合えば触れ合うほど、木曽馬との距離は近くなり、はじめはえさをあげられなかった児童が木曽馬のお腹に耳を当てて「ぽこぽこって音がしているよ」と発見したり、30頭いる木曽馬の名前をほとんど覚え見分けられる子が出てきたりと、木曽馬への愛着を深めたり、身近なところに木曽馬がいることの良さに気付くことができた。



### 9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

#### 〈成果〉

図書室で外国の本を手にとって民族衣装のページを見たり、ニュースで見た外国のことを伝え合ったりする姿が見えるようになった。本単元の授業を通して、生活の一部に諸外国を意識して生活するきっかけを持てたことが大きな成果であると感じた。

また木曽馬という、郷土に根ざしていながら生活の中での関わりが減ってしまった動物を、今も人と共に暮らすモンゴル馬と比較することで、木曽馬への感謝や、木曽馬の力強さ、木曽馬がいる開田の良さを発見することができた。

#### 〈改善策と継続〉

今回は時数の関係上、モンゴルの文化的側面にしか焦点を当てることができなかった。次年度も継続的に国際理解教育を行い、日本がしている支援やモンゴルで活躍している青年海外協力隊の活動、モンゴルが抱えるゴミやインフラなどの諸問題、などを題材に多方面から授業を行いたい。

### 10 教師海外研修に参加して

この研修は、私にとってかけがえのないものとなった。何よりも刺激を受けたのは、一緒に研修を行った仲間だった。12人で10日間を過ごしたが、10日間あれば、日本との違い、驚き、感動、時にはハプニングに遭遇する。同じ事象に遭遇しながら、感じ方や発見は12人それぞれに違う。その思いを12人で共有するだけで、同じことでも受け取り方や、授業での生かし方がこんなにも違うものかと驚かされた。きっと行く先の国はモンゴルでなくてもどこでもいいのだと思う。まずは比べる、体験する、発見する、考える。どんなことに対しても課題を見つけ、自分なりのアプローチを見つけ、掘り進めていくことの大切さ

に気付かされた、10日間であった。